



## 12 区 | 大久保・外内 行政区

### 地理



草野や村役場から飯樋へ向かう村道を通っていくと、役場を過ぎたところで坂を下る。その先すぐに現れるのが大久保・外内行政区である。飯樋4区の東北あたりを占める、比較的小規模な行政区で、平地と斜面の境目でゆるやかな傾斜のある景観が特徴的である。

### 文化・生活

震災前、他の村内の行政区と同様に稲作や葉タバコ、インゲンの栽培や牛の飼育を行っていた。事故後のコミュニティとしてもっとも特徴的なのは、「いいたて結い農園」の取り組みである。事故後6年もの間避難を強いられたことから農家としてのブランクがあり、また帰村した住民も高齢の方が多いために、再度家畜を飼ったり大型機械を扱うといった重い作業を行うことは難しい状況にあった。そうした中、農地の維持管理や地区のコミュニティの維持、健康維持のための機会づくりのために作られた、軽い作業でできる農作業を集団で営む法人が、「いいたて結い農園」である。当初は蕎麦や、粟といった様々な雑穀類にも挑戦し、最近では健康によいえごまの栽培に注力している。えごまは手作業で丁寧に収穫しないと油の品質を損ねるため、結い農園のコンセプトにかなった作物



## 長正増夫 行政区長

長く村役場に勤め、飯舘牛のブランド化や若妻の翼事業（村外から嫁いできた女性を対象に、海外旅行などを企画し親睦を深めてもらう）といった先進的な取り組みを主導した。現在も、「いいたて結い農園」の役員や飯舘小唄記録動画作成を主宰するなど、地域を引っ張り続けている。

となっている。えごまを食べると10年長生きするという言い伝えが由来となり、地元ではもっぱら「じゅうねん」とよばれている。さらに、化学肥料や農薬の使用を抑える努力をしており、栽培のみで採算を取ることが難しいため、えごま油の加工といった加工過程も自前で行っている。品質を保つため、受注を受けてから油を絞ることを決めている。ちなみに、水はけが悪いなど商品作物の栽培に適さない農地では景観作物としてあやめ類を栽培しており、シーズンには村道からもよく見える。また、飯舘4区の柱である大雷神社が所在する地区でもある。



▲ 飯舘と草野を結ぶ村道から村営笠石住宅方面を望む。村営住宅には若い移住者などもいるという。

▼ 集会所と観音様の松

